緑川大二郎（1913～2000）

第四代社長
緑川大二郎
（昭和45年～平成2年）

緑川賢策の三男として大正２年４月１日に生まれる。
扇田小を終えると東京に嫁いだ姉の勧めを入れ、フランス語教育で知られた東京・暁星中学に進む。
旧制静岡高校から東京帝大法学部政治学科を卒業。三菱鉱業に入社するが、ほどなく応召に遭い南方戦線を転戦。終戦時は陸軍憲兵大尉。
昭和21年復員帰国。22年、父の経営する北秋木材に入り、45年に会長に退いた兄正雄の後を継ぎ社長就任。
ちなみに暁星中学の同期には、吉田茂元首相の長男で文芸評論家の吉田健一、歌舞伎俳優尾上松緑、科学評論家桶谷繁雄、一期下には元文部大臣田中竜夫らが居て、こうした人脈によって事業や団体活動が支えられた側面は見逃せないだろう。

石油ショックによる木材不況最中の47年、秋田県製材協会（24団体・229工場）の会長に。不況脱出には何より自助努力が肝心と、樽丸・合板・製函・木工とそれぞれだった業界各団体を説得し、49年に秋田県木材産業協同組合連合会の設立を果たし理事長に就任する。

48年に全国木材組合連合会副会長、59年会長となる。東大政治学科卒のキャリアにして政治経験はゼロだったが、事業一筋の末に就いたのは、≪木材界の総理≫の座であった。

50年からは三代目の大館商工会議所会頭。全国中小企業団体総連合副会長、木材需要拡大中央協議会会長、林政審議会・建築審議会委員など全国レベルの役職をはじめ大館観光開発社長，秋田相互銀行取締役など実業界での肩書は多い。

野球でのキャリアはつとに知られる。二人の兄も中学までは野球部だったが、末弟は小学校５年生で上級生を押しのけ主将となり、中学、高校、大学のいずれでも本塁の守りを託されながら主将の重責を担った。

暁星中学では東京地区予選決勝まで進んだが、７年連続出場の早稲田実業に甲子園出場を阻まれている。東大では昭和10年春からレギュラーに。

そして12年度に主将。東大は六大学リーグ加入から歴史も浅く、絶不振の

振の時代だったが、後の都市対抗優勝投手土井壽蔵投手を擁した慶応相手の在学中の２勝が光る。

東大時代は多くの名選手と対戦している。早稲田には若原正蔵投手とスラッガー高須清が、明治には甲子園決勝で明石中学を相手に延長25回を投げ抜いた中京商業の吉田昌男・野口のバッテリーはじめ杉浦清・岩本義行がいた。法政は鶴岡一人・戸倉勝城が活躍、立教では景浦将・坪内道則が主力だった。（吉田一雄氏　「大館野球史」）

趣味はゴルフと謡曲。前者はシングルの域、大館カントリークラブ初代理事長を務めた。後者は五木田武計について30年以上のキャリアがあり、ゆうに正教授格の実力と評価されている。

平成２年、秋田県文化功労章受章。平成12年２月７日死去。

（大館市の先人を顕彰する会　大館の人・事典）